

「地域完結型医療」を目指し、同院の隣に開設した「奥村レディースクリニック」



明るい雰囲気。リニューアル移転を機に、院内アメニティーの充実を図った



奥村レディースクリニックの内科・心療内科専門医の加納和院長(右)、不妊治療・婦人科専門医の向林学副院長(左)ら複数医師がチームとなり、あらゆる婦人科疾患をトータルに診療する



患者の安全を第一に考え、看護師・助産師ら病棟スタッフと患者の情報を共有



入院中の患者がリラックスできるように、笑顔で話しかける奥村院長



おくむら・よしひで

- 和歌山県橋本市出身
- 1982年 近畿大学医学部卒業
- 1982年 近畿大学医学部産婦人科学教室入局
- 1984年 大阪府立母子保健総合医療センター(新生児科・母性内科、産科レジデント)、大阪赤十字病院ほか
- 1992年 近畿大学附属病院産婦人科
- 1994年 旧医療法人奥村医院継承
- 2008年 医療法人久和会理事長就任

PERSONAL DATA

- 家族 妻、長男、長女、次女
- 趣味 読書、ジャズ鑑賞

Clinic DATA



■所在地 和歌山県橋本市東家4-18-13  
TEL: 0736-32-0072  
URL: <http://www.okumuraclinic.or.jp>  
■診療科目 産婦人科、小児科

時代のニーズに応じて  
ハード&ソフトを見直し  
女性にやさしい医療を追求

和歌山県橋本市とその周辺地域の6割強の分娩と婦人科手術を担う奥村嘉英院長。父親である先代の医療理念を継承し、地域のかかりつけ医としての役割を果たしている。

当院は1957年に先代が開業して以来、50年余りにわたって地域に密着した医療を展開しています。医師を志した時から、父と同じかかりつけ医という人生が自身のビジョンにあり、大学卒業後は大病院や総合病院で周産期医療を中心に経験を積み、産婦人科医としての基盤をつくりました。ここ数年、産婦人科を取り巻く

情勢は大きく変化し、医師不足、過酷な労働環境、訴訟リスクなどが問題視されています。橋本市周辺も、私が継承した94年頃から産婦人科医院や病院の産婦人科の閉鎖が相次ぐ危機的状況が続いています。こうしたなか、「来る者は拒まず、すべての人を受け入れる」という父の理念に基づいた地域医療を継続させていくためにも、時代のニーズに応じたハードとソフトの見直しが必要と考え、2年前にリニューアル移転を試みました。これを機に女性の目線に立ったアメニティーやエステ、ヨガ、ベビーマッサージなど医療周辺のサービスを充実させ、患者さんの心身のフレッシュにも力を注いでいます。現在、年間約600件もの新しい命の誕生と向かい合っています。

す。本来は「感動の瞬間」ですが、元気に生まれてくる赤ちゃんばかりではありません。患者さんの喜びや悲しみをすべて受け入れる覚悟がなければ産婦人科医は務らないと、最近改めて感じています。どんな時も常に冷静さを忘れないようにすることが、私なりの医師としてのプライドですね。

患者の安全確保と  
良好なアウトカム創出へ  
チーム医療を強化

お産から婦人科疾患治療までのトータルな医療の提供を理想として、「奥村レディースクリニック」を隣に開院。複数医師のチームによる「地域完結型医療」の構築を目標に掲げている。

当院を継承して以来、産婦人科医、時には小児科医、内科医として「年中無休」の状態で働くうちに、「これからは産婦人科医院を1人の医師が切り盛りしていく時代ではない」と感じるようになりました。複数医師が診療にあたることで、患者さんの安全・安心の確保と

良好なアウトカムの創出、そして地域と患者さんのニーズでもある「地域完結型医療」の実現に貢献できると考えました。それを踏まえて、当院のリニューアルとほぼ同時期に、婦人科、不妊治療、内科、心療内科を担う「奥村レディースクリニック」を開院しました。現在は非常勤の小児科医も含め、両院の医師がチームとなつて、不妊治療から、産後のメンタルケアおよび更年期まで、がんなどの難病を除くあらゆる婦人科疾患にもトータルに対応し、1人の患者さんへの医療をできるだけ自院で完結させることを目標に掲げています。

かつて父が取り上げた子どもたちが成長し、現在は私が彼女たちの出産をサポートするようになりました。患者さんの安全を第一に考え、「命のリレー」のバトンを次世代につないでいくためにも、チーム医療を強化する必要があります。病院ではなく「診療所」としての新しい診療スタイルと事業スキームをいかにして創り上げていくかが、私が今、抱えている大きな課題です。これからも当院の理念を共有できる医師を増員し、地域医療に邁進する考えです。